

国際教養学部 国際教養学科【教育課程の編成・実施方針】

国際教養学部国際教養学科では、学位授与の方針で示した「学習成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

<専門教育課程の構成>

1. 本学部のカリキュラム編成の特徴は、一つには、入学時にフランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語の5言語の中から1言語を選択させ、英語とあわせ、集中的に学習させること、二つ目に、4つの分野（言語文化、歴史文化、思想文化、国際社会）を柱としている点にある。さらに、この4分野にわたって設けられた多様な科目の核として演習を配置している。演習は2年次から4年次まで必修とし、4年次には卒業研究を完成させることを義務付け、それをとおして国際教養人にふさわしい情報収集力、分析力、思考力、発信力を訓練する。
2. 学部固有科目の卒業単位は78単位であり、以下の科目群に分けて編成する。
 - ① 基礎科目（26単位必修）として、国際教養学入門A・B・C・D、～語IA・IB・IC・ID・IE・IF・IG、～語情報処理、～語IIA・IIB・IIC・IID・IIE・IIF、（～語、は5言語の名称が入る。例：フランス語IA）、イングリッシュ・ワークショップIA・IB、イングリッシュ・スタディーズIA・IBを配置する。
 - ② 基幹科目は、必修科目（2単位）としてはイングリッシュ・ワークショップII、イングリッシュ・スタディーズIIを配置し、選択必修科目（12単位以上）としては～語～文化研究IA・IB、～語～文化研究IIA・IIB、西洋史概説、東洋史概説、現代思想概論、哲学概論、国際社会概論A、国際社会概論Bを配置する。
 - ③ 展開科目（26単位以上）は、1.言語文化系科目、2.歴史文化系科目、3.思想文化系科目、4.国際社会系科目、5.キャリア形成支援科目、6.海外留学に関わる科目、により構成する。それぞれの具体的科目名は以下の通り。
 - (1) 応用～語A・B・C・D、イングリッシュ・ワークショップIII、イングリッシュ・スタディーズIII、比較言語論A、比較言語論B、ことばと文化A、ことばと文化B
 - (2) ヨーロッパ中世史、ヨーロッパ近代史、文字と文書の中国史、日本古代・中世史、日本近現代史、東アジア近代史
 - (3) 近現代ヨーロッパ思想、心の哲学、応用哲学、論理的思考法、日欧比較文化論、進化文化学
 - (4) 現代海域世界論、地球市民社会論、国際環境協力論、少数民族論、国際労働移動論、地域公共論
 - (5) キャリア・ディベロップメント、インターンシップ
 - (6) 海外課題研究、海外留学科目、海外セミナー
 - ④ 演習科目（12単位必修）として、演習I・II・III・IV・V・VIを配置する。

3. 本学部カリキュラムの中に、以下のような特色をもつ科目や教育システムを設置・構築する。

- ① 選択言語の運用能力を確実なものとするため、「発音」「会話」「語彙」「文法」「講読」「作文」「語学検定対策」などの学習を、～語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD・ⅠE・ⅠF・ⅠG、～語情報処理、～語ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD・ⅡE・ⅡF、応用～語A・B・C・Dにおいて段階的にすすめる。なお、「発音」の授業においては受講生を15名以内とする少人数クラスを編成する。
- ② 英語の高度な運用能力を確実なものとするため、イングリッシュ・ワークショップ（リスニングとスピーキングに重点を置いた授業）、イングリッシュ・スタディーズ（リーディングとライティングに重点を置いた授業）において、受講生を最大で15名程度の少人数クラス編成を行う。これらのクラスでは、学生は英語でリサーチをし、発表することを通じて、教養科目で履修したような高度な内容を英語で発信できる運用能力を身につけることを目指す。
- ③ 1年次において国際教養学部での学習の全体像を見渡し、以後の学習を方向づけるために、国際教養学入門A(言語)・B(歴史)・C(思想)・D(国際社会)を設け、4科目すべてを必修としている。
- ④ 5つの選択言語の運用能力と文化理解を実地で深める機会として、2年次（または3年次）秋学期に5言語圏の大学への留学プログラムを設けている。このプログラムを海外課題研究として単位化し、その履修を強く推奨している。
- ⑤ 自学自習を促すべく、国際教養学部専用の学習スペース ILS Student Lounge を設け、専門図書や視聴覚教材、学習用 PC を配置している。

4. 学習成果と科目の関係は、以下の通りである。

- ① フランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語のうちいずれか一つの言語、および英語について、現実の様々な場に対応できる高度な実践的運用能力を有している

＜選択言語科目＞ ～語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD・ⅠE・ⅠF・ⅠG、～語情報処理、～語ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD・ⅡE・ⅡF、応用～語A・B・C・D

＜英語科目＞ イングリッシュ・ワークショップⅠA・ⅠB、Ⅱ、Ⅲ、イングリッシュ・スタディーズⅠA・ⅠB、Ⅱ、Ⅲ

- ② 異なる言語文化環境の中で、異なる価値観と生活体験をもった人々と交流・協働し、その文化のありようを客観的に観察・分析することができる

＜留学関連科目＞ 海外課題研究、海外留学科目、海外セミナー

- ③ 世界の言語と文化の多様性と普遍性を深く認識し、その認識を実際の国際交流の場で生かすことができる

＜言語文化系科目＞ 国際教養学入門A、～語～文化研究ⅠA・ⅠB、～語～文化研究ⅡA・ⅡB、比較言語論A、比較言語論B、ことばと文化A、ことばと文化B

- ④ 国際交流の基礎となる歴史認識を磨き、現実を深く洞察することができる
- ＜歴史文化系科目＞ 国際教養学入門 B、西洋史概説、東洋史概説、ヨーロッパ中世史、ヨーロッパ近代史、文字と文書の中国史、日本古代・中世史、日本近現代史、東アジア近代史
- ⑤ 正しい批判力をもって現代社会の哲学的課題に取り組み、その成果を人間交流の場に生かすことができる
- ＜思想文化系科目＞ 国際教養学入門 C、現代思想概論、哲学概論、近現代ヨーロッパ思想、心の哲学、応用哲学、論理的思考法、日欧比較文化論、進化文化学
- ⑥ 国際社会が直面する課題を発見・探究し、対話によって解決の道筋を探ることができる
- ＜国際社会系科目＞ 国際教養学入門 D、国際社会概論 A、国際社会概論 B、現代海域世界論、地球市民社会論、国際環境協力論、少数民族論、国際労働移動論、地域公共論
- ⑦ 探求すべきテーマを自ら設定して調査を行い、自律的・批判的に考察し、創造的な研究成果を提示できる
- ＜演習科目＞ 演習 I・II・III・IV・V・VI
- ⑧ 自己の適性と社会のしくみを的確に理解し、自己のキャリアの展望をもつことができる
- キャリア・ディベロップメント、インターンシップ